

# 平成 30 年度ソフィアだより 5 月号

## 【こどものころに みた空は】

ひとはみな みえないポケットに こどものころにみた空のひとひらを  
ハンカチのようにおりたたんで いているんじやなかろうか～  
「こどものじかん」というのは「人間」の時間を はるかに超えてひろがっているよう  
におもう。  
生まれるまえからあって 死んだあとまで つづいているように おもう。

工藤直子

こどものころに、みた空の青さを心に持ち続け、前へ前へ生き続けていく。自分らしく。あきらめず。そういう人になってほしいなあとソフィアの子もたちの無邪気な姿をみて思います。

日本人で初めて「メーキャップ&スタイリング賞」でアカデミー賞を受賞した辻一弘さんのインタビューを聞きました。

「自分を信じ、やりたいことを見極めることが大切。心に正直にいたるべきだし他人の意見に耳を傾けて流されると後悔する。まずは 10 年続けること。本当にやりたいことをやると人生がどんどん良い方向につながっていく。」「くやしい場面に出会ったときにその度に努力を重ねて頑張るしかないんです。」「自分のやりたいことは自分にしかわからないから」

辻さんのたゆまぬ努力をささえたものは、意地もあるでしょうが、根底に自分は「できる」という自分への信頼です。その自分への信頼=自分を愛する心は、生きていく中で愛情を受ける経験を積まないと生まれません。今年度から保育指針、幼稚園園こども園教育要領、保育要領などが改訂され、小学校は、道徳の教科化となりました。目に見えない規範意識や家族への愛など道徳の教科書の中に出てくるテーマですが、目には見えないものを教えることほど難しいことはありません。それは体で心で感じるからです。五感を通して思考していく乳幼児期にどれだけの豊かな経験をさせてあげられるか。決して否定的でない言葉、ふるまい、美しいものにふれる経験、笑顔で食事をする事、その目には見えない愛情をかけられた経験が子どもの 10 年、20 年、否一生を左右します。私たち大人も風薫る 5 月、心の中にしまっていた「こどものじかん」を思い出し青空を仰ぎ過ごしていきたいものです。